

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：学校法人 城西大学
設計：大田建築設計研究所
施工：株式会社 大林組

復元された農村旧家

旧 水田家住宅

所在地：鴨川市西字西平339-1



姿を見せた石垣が敷地を囲む

訪れた日はすさまじい豪雨で、ゆるい斜面に建つ水田家旧宅の屋敷門の石段下は走り水が音をたててながれていた。

裏口から駆け込み傘をたたんで眼をあげると、ほの暗い土間にはかまどが並び、続く板間の囲炉裏が懐かしい。

伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の舞台は松戸近くの矢切村、水田家は鴨川の在だが、いずれも県内に代を重ねた農村の旧家。黒光りする柱の影には民子、奥座敷からは緋着姿の政夫が今にも現れそうな気配だ。

見事に復元された旧宅に見る明治の姿は小説とほぼ同時代だが、建設はさらに百年以上さかのぼると聞いた。戦後の蔵相として活躍した故水田三喜男氏も、政夫と同じく生家であるこの家を離れて中学に進学している。

古民家再生は木組みや意匠を残して現代生活へのリフォーム、この家のような復元は伝統文化保存、明治期にいち早く南総酪農開発にも力を注いだ水田家では、屋敷門棟屋を牛小屋としており、当時の作業具も展示して、歴史を語る登録有形文化財としての配慮も誠実である。

雨脚もおさまり、曲がり坂道を少しくだって緑に囲まれた旧宅を見上げる。草むらにうもれていたという道沿いの石垣、やや斜めに構えた屋敷門、その奥のどっしりした茅葺き屋根の



門の奥に浮かぶ母屋全景



豊かな曲線の茅葺き屋根

母屋が見せる見事な里山風景は、足を延ばして訪れる人々を暖かく迎えてくれるだろう。

(野口瑠璃)